

[報告] 深溝松平家の歴史に見る災害の爪痕

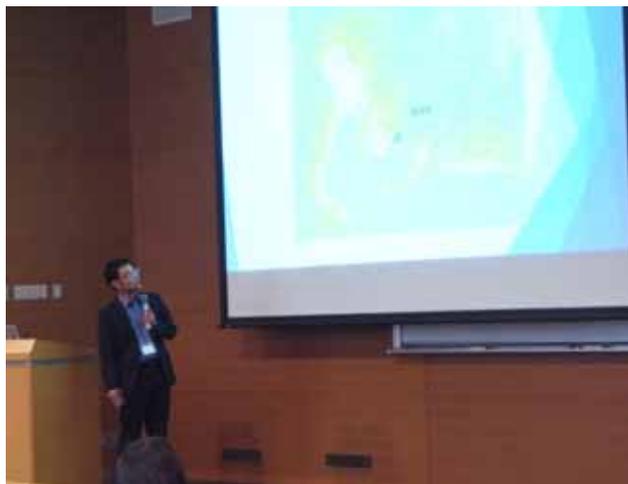
(第31回歴史地震研究会公開講演会要旨)

幸田町教育委員会* 神取龍生

§1. はじめに

1945年1月13日、幸田町の前身である幸田村南部の深溝地区から幡豆郡豊坂村逆川一帯にかけて、三河地震という自然災害が襲った。特に地表に現れた断層の南側は甚大な被害を受け、集落はほぼ壊滅状態であった。断層の北～北東側にも南側ほどではないが、多くの被害が発生している。その被害の痕跡は現在にも残り、地震により傾いた建物を支える補強金具や柱の隙間を埋める添木、崩れたままの土塀など、当時の被害の凄まじさを克明に伝えてくれる。

本稿は、幸田町において当時の様子を現在まで残す、曹洞宗瑞雲山本光寺の三河地震の被害状況及び、本光寺を菩提寺として庇護した島原藩とその藩主深溝松平家の治世下における災害対策について報告するものである。



§2. 島原藩主深溝松平家と菩提寺瑞雲山本光寺

江戸時代、島原藩主として島原を統治した深溝松平家は、16世紀前半、松平総領家より深溝村を領地として分地され、創設された松平家の一家であり、創設以来一貫して総領家を支え続けた。初代は五井松平忠景の次男松平忠定と伝わるが、近年、初代が遡る可能性も指摘されている。5代松平忠利は、幕藩体制の大名として深溝西郡藩主、吉田藩主を歴任、6代松平忠房は刈谷藩、福知山藩主を歴任し、寛文12年に島原藩主として赴任する。一時期宇都宮に移封となるが、再度島原に戻され、18代松平忠和まで、

島原藩主として、幕藩体制の維持に尽力する。

松平家当主が建立した寺が瑞雲山本光寺である。この瑞雲山本光寺は当主の移動に伴い寺基を移動するため、本寺としての本光寺は国許である島原に建立されている。17世紀前半、本光寺が吉田に移動した後、深溝に残った寺は末寺源光寺として寺基を残していたが、寛文13年、松平忠房の命で本寺と同じ瑞雲山本光寺に改称し、同山号・同寺号の本末寺院体制が成立する。

§3. 深溝松平家の歴史史料と中・近世の災害記録

歴史史料を扱うには、同時代資料による比較・検討が必要である。本報告では、明治初期に藩の公式記録として編纂された「深溝世紀(松平文庫蔵)」を柱に、「家忠日記(駒澤大学図書館蔵)」・「忠雄公御日記(常盤資料館蔵)」等の歴史史料の記載内容とのクロスチェックを行いながら進めている。

「深溝世紀」は初代から18代までの歴代当主の業績を代ごとにまとめた史料であり、その情報元は藩日記や書状と考えられる。深溝世紀を読み解いていくと、4代家忠の巻では天正13年7月5日の天正地震、7代忠雄の巻では、元禄14年6月21日の京都大水、元禄16年11月22日の元禄地震、宝永4年11月23日の富士山噴火、11代忠恕の巻では安永4年の島原大變、13代松平忠侯の巻では天保元年7月2日の京都地震、15代忠精の巻では、安政元年11月5日の安政南海地震、安政2年10月2日の安政江戸地震が記録されている。このうち、元禄地震の場合「深溝世紀」では「地大いに震う。城郭多く壊れ士民の館舎概ね全きもの無し」の一行が記載されている。「忠雄公日記」では7項目にわたって被害の様子や災害対応等が事細かく記載されている。両資料に記載されていることから、その当主代に起きた大災害で、藩として重要と考えられた災害であることがわかる。

逆に島原藩に関係する大地震でありながら「深溝世紀」に記載されていない災害も存在する。安政元年6月14日に起こった安政伊賀上野地震もその一つである。深溝本光寺の所蔵史料目録(幸田町教育委員会・他、2013)には「書状、地震にて破損の御廟前御囲塀屋根瓦取繕方申付につき」という資料が掲載されている。安政伊賀上野地震の事が記載された資

* 〒444-0192 愛知県額田郡幸田町大字菱池字元林1-1
電子メール: syogaigakusyu@town.kota.lg.jp

料と考えられるが、地震及び廟所を修復したという記録は「深溝世紀」には記述されていない。

§ 4. 深溝松平家と近代の災害記録、そしてこれから

冒頭でも記述したように、戦争末期に起こった三河地震の被害は甚大であり、貞享3年以降260年近く渡り建立され続け、そして護られてきた深溝松平家墓所が一晩で壊滅的な状況となる。墓塔は倒壊しなかったものの、土塀は全壊、石燈籠も倒壊し、その多くが破損した。石造物は直されたが、土塀は現在も倒壊したまま残されている。破損箇所は三河地震を現

在に伝える地震遺産と表現する事も出来ようが、倒壊以降、着実に劣化が進んでいる土塀は史跡の文化財価値を損なう要因ともなり得るものである。

今後は、深溝松平家墓所の文化財的価値を損なわないためにも、また何よりも墓所としての尊厳を保つ上でも、早急な復旧が求められている。

文 献

本光寺文化財調査指導委員会・他, 2013 『本光寺文化財調査総合報告』, 幸田町教育委員会.